

## 事例研究報告

**特別支援学校高等部生徒が作業中  
クラスメートに援助を求める指導**

# 生徒の実態

## 高等部生徒 自閉症

- 教員と話すことが好き。長い会話は続かないが、クラスメートから話しかけられて応答している様子はときどき見られる。
- 何度も経験した会話のやりとりはスムーズにできる。
- 相手の様子を窺わず、自分のタイミングで話し始めることが多い(「昨日〇〇しました」「今日のお弁当は〇〇です」等)。
- 教員への援助要求はほとんどの場面でできるが、友だちへの援助要求については、言葉かけ等の支援が必要。

## 教員の考え



「困ったことやわからないことがあった時、周囲に助けを求められるようになってほしい。」

## アドバイザーからの助言 1

援助要求しづらい原因を探ってみましょう。



## 指導目標の見直し

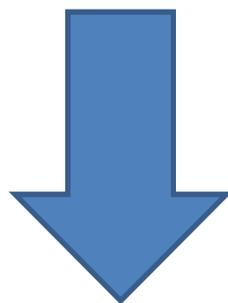
援助要求しづらい原因について探ってみました。

結果↓

- 「わかっていないこと」がわからない
- 周囲の大人たちにどこまで求められているのかわからない(正解を探る傾向あり)
- セルフィメージを壊したくないのかも
- 指示理解ができていないかも
- 自分で選択できないのかも  
(選択することに自信がない、選択する経験が少ない等)

## アドバイザーからの助言 2

援助要求の前に、自分で選択できるか探ってみましょう。



アドバイザーの先生からの助言を受けて、自己選択ができるかについて、現状の記録をとりました。

## 記録方法と記録

本人が大好きだと思える活動と、そうでない活動を準備し、選択した活動を記録する方法で行いました。

### 【記録方法】

実施授業・・・担任が受け持っている授業内で実施  
選択肢・・・2択(タブレットで路線調べ・トレーニング)  
期間・・・月～金曜の連続5日間  
活動時間・・・5分間  
場所・・・教室

### 【結果】

自己選択できた回数・・・3回  
(9/5～9/9の5日間で実施)

## アドバイザーからの助言 3

1. 「自分で選択できている」と考えてよいでしょう。
2. 援助要求における現状の記録をとり、観察をしましょう。その後指導方法を考えていきましょう。

### 援助要求できない理由として…

1. 「困っていること」に気づいていない。
2. どうすればよいか(何と云えばよいか)わからない。
3. 方法はわかるが、実際援助要求する技術がない。
4. 方法も技術もあるが、援助要求しても援助してもらえない(嫌な表情をされる、「それくらい自分でしなさい」と言われる等)。  
などが考えられるでしょう。

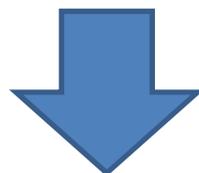


## 現状の記録から見えてきたこと

【現状の記録】 2場面で記録をとりました。  
作業場面 家庭科調理実習

### 【わかったこと】

- ・ 教員には進んで援助要求ができましたが、クラスメートへの援助要求はほとんど見られませんでした。



検討会を持ち、クラスメートへの援助要求に絞って指導の手続きを考えることにしました。



## 指導目標の見直し

### 【長期目標】

クラスメートやクラスメート以外の特定の生徒に対し、援助を求めることができる。

### 【短期目標】

特定のクラスメートに対して、援助を求めることができる。

# 指導その1

## 【指導場面1】

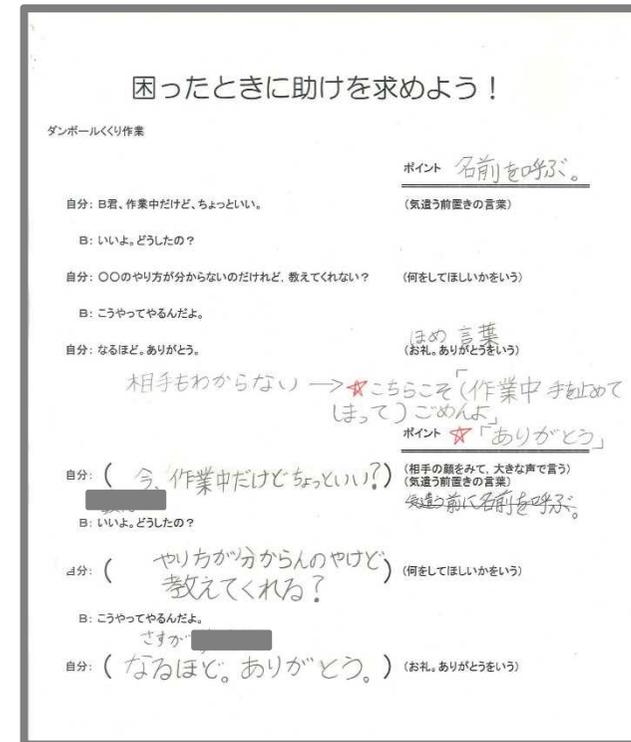
特別活動・生活単元学習等で  
SSTを行う(定着場面)

## 【教材】

SSTワークシート  
パワーポイント資料

## 【方法】

1. 前回行った段ボールくくりの様子を動画で振り返る。
2. 困ったことについて話し合う(ペア活動)。
3. 友だちに援助を求める方法を学ぶ。
4. 友だちに援助を求めるセリフを考える(ペア活動)。
5. 場面を設定してロールプレイを行う。



## 指導その2

### 【指導場面2】

段ボールくり作業（般化場面1）

### 【教材】

段ボール、荷紐、はさみ

### 【手続き】

1. 作業内容や作業方法、ルール等を説明，提示する。
2. 困った時やわからない時は、ペアの生徒に聞くよう伝える。
3. 適切に援助要求できたときは賞賛する。
4. 教員に援助要求してきた場合は、提示したルールを再確認するよう促す。

# 指導その3

## 【指導場面3-1】

朝活でのおりがみ  
(般化場面2)

## 【教材】

おりがみ, 折り方シート  
援助要求チェックシート  
シール

## 【手続き】

1. 折り方シートを見ておりがみを折る(5分間)。
2. 活動中、困ったりわからなかったりしたら、クラスメートに援助を求めるよう、活動のはじめに確認をする。
3. クラスメートに自分から援助を求めることができたなら賞賛し、シール1枚を渡す。

援助要求チェックシート

15										
14										
13										
12										
11										
10										
9										
8	●							●		2/0 おりがみ(5分) ユニット ハートはこ
7	●		●					●		2/9 おりがみ(5分) ユニット ハートはこ
6	●		●					●		2/8 おりがみ(5分) はこ3
5	●		●					●		2/7 おりがみ(5分) はこ2
4	●		●					●		2/6 おりがみ(5分) はこ1
3	●		●	●				●		2/5 おりがみ(5分) おに
2	●		●	●				●		2/1 おりがみ(5分) ハート
1	●		●	●	●	●	●	●		2/1 おりがみ(5分) 3/4折紙
	A									課題



## 指導その3

### 【指導場面3-2】

家庭科での調理実習（般化場面3）

### 【教材】

調理器具、食材、レシピ（豚丼、牛丼）

### 【手続き】

1. レシピに沿って、ペアで調理を行う。
2. 調理中、困ったりわからなかったりしたら、クラスメートに援助を求めるよう、授業のはじめに目標確認をする。
3. 授業の終わりに作業ノートを使用して振り返りを行う。

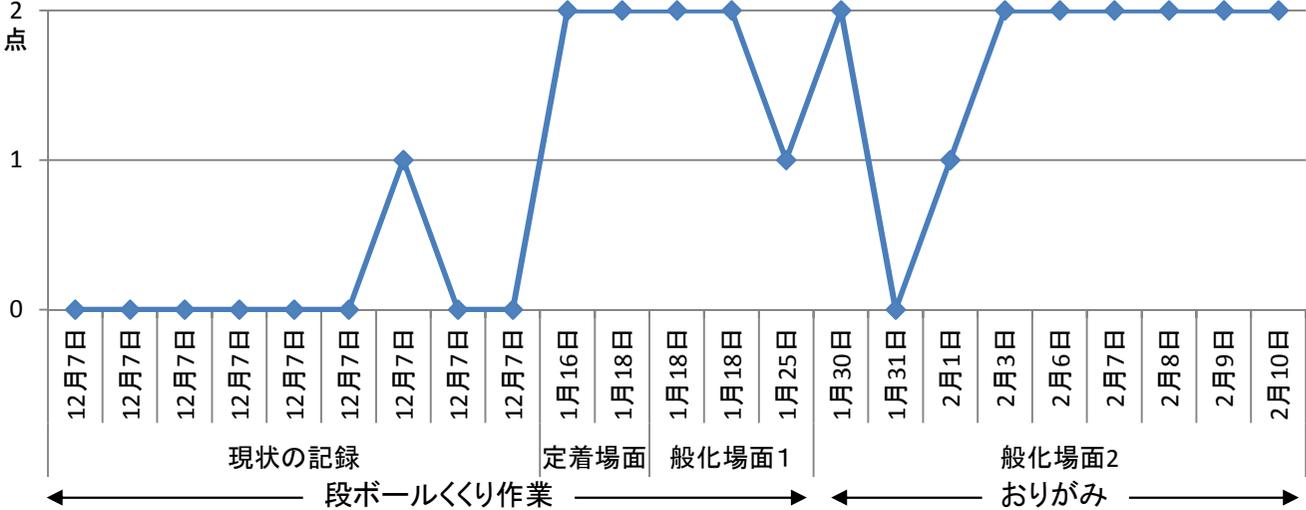
## 記録方法と記録

【指導場面1】【指導場面2】【指導場面3】における、段ボールくり作業や朝の活動でのおりがみ、調理実習をとおして、次のとおり記録をとることにしました。

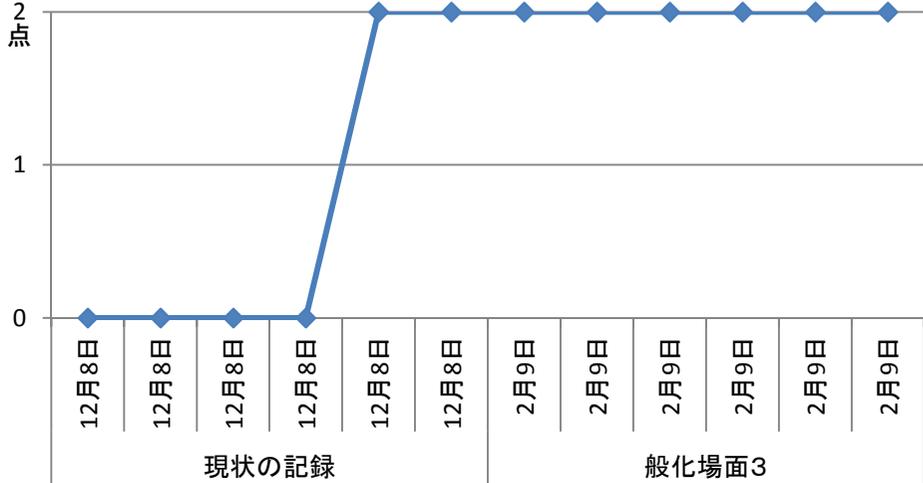
点数	評価基準
○(2点)	自分からクラスメートに援助を求めることができた。
△(1点)	教員の言葉かけによりできた。
×(0点)	できなかった。

# 指導1の成果

段ボールくり作業  
おりがみ



家庭科(調理実習)



2点 支援なくできた  
1点 言葉かけあり  
0点 できなかった

## アドバイザーからの助言

- クラス全体で援助要求OKチェックシートを活用したことで、他の生徒も友だちへの援助要求が増えたことがよかったです。
- 必要に応じて、校内ですぐに検討会を開いていたことがよかったと思います。



# ここが成功のポイント



- ソーシャルスキルトレーニングで定着を図ったことで、スムーズに般化場面に移行できた。
- 援助要求OKチェックシートの活用で、他の生徒にも要求頻度の向上がみられた。
- 教員チームで改善を進めるための検討会の開催が有効であった。